

事業報告書

第6期

自 2020年4月 1日

至 2021年3月31日

ACAS

一般社団法人新CAS協議会

一般社団法人新CAS協議会 2020年度事業報告 【2020年4月1日～2021年3月31日】

1. はじめに

一般社団法人 新CAS協議会は、2018年12月に始まった新4K8K衛星放送（4・8K放送）に合わせて、放送コンテンツの保護管理に必要な新しいCASシステム（ACAS）の構築を目的に、2015年10月にスカパーJSAT株式会社、株式会社スター・チャンネル、日本放送協会、株式会社WOWOWの4社により設立され、続く2017年にはケーブルテレビ事業者、2020年10月には地上放送を含む放送事業者が加わり運営されている。4K・8K放送の開始後には、活動の中心は社会基盤としてのACASの普及・定着に移行し、4K・8K放送を含めた放送環境の更なる醸成に向け取り組んでいる。

2020年度末までにACASチップ向けに発行したID鍵の件数は、累計およそ1,600万件にのぼり、ACASに対応するテレビ等受信機は800万台超となっている。2018年の初出荷以降、製品としてのチップの信頼性は非常に高いことが確認されており、新しいCASシステムの初期実用フェーズを経て、安定して普及しているといえる。

チップ製造ベンダーとの連携により、問題発生時の“迅速な対応”を目途とした対策フローを確立し、恒常的に市場におけるACASチップの品質監視体制を確立した。さらにACASのプログラムの更新にあたっての技術的課題を抽出し、今後のアプリケーションの改良・開発に備える検討に着手した。

今後も普及の拡大と方式の安定運用を進めながら、より多くの視聴者が、高品質の放送コンテンツを安心して楽しめる環境の維持に努める。放送に関わる幅広い分野の事業者との綿密な連携を進めながら、多くの期待に応えられるようACAS方式がより強固な基盤となるよう努める。

2. 事業報告

【2-1：技術部】

技術部は、4K・8K放送の本格的な普及に向けて、コンテンツを適切に保護する仕組み（ACAS方式）に関する技術運用及びセキュリティ維持・管理等の業務を進めた。

①ACAS方式の運用

ACAS方式の運用は、新4K8K衛星放送開始から2年以上の期間を経て、引き続き安定しており、ACASチップについても、順調に流通が進められるなかで、故障も少なく良好な品質を維持した。2020年度は、ACAS方式及びACASチップに関する技術的な運用課題への対応並びにACAS方式の検証環境の整備等を継続して進めた。

②関連設備の運用

ACASセンター及び鍵管理センター設備による受信機メーカー及び放送事業者への鍵発行等を安全・確実に進めながら、新CASシステムの適切な運用を行った。

③セキュリティの維持・管理

運用フェーズにおける継続的なセキュリティ維持を議題とする有識者によるCAS評価委員会を開催した。本委員会では、セキュリティ関連文書の整備など、2019年度

の活動内容をご評価頂いた。また、ACAS方式のセキュリティ機能の実用性検証実施計画を策定し、受信環境に関する初期段階の検証に着手した。本検証は、2021年度に本格的な実施を予定しており、それ以降も継続的に実施することとしている。

これらの取り組みに加え、放送事業者等及び鍵管理センターのセキュリティ点検並びにACAS方式及びACASチップに関するセキュリティ監視等も引き続き実施した。

④技術仕様等の整備

セキュリティ運用関連文書の整備として、ACASチップの変更管理に関するガイドラインを策定した。

⑤関係機関等との情報共有

ACAS方式の適正な普及と適切な維持管理を目的とし、受信機メーカー、放送事業者、ケーブルテレビ事業者等、CASベンダー及び関係機関等との情報共有と連携を図った。

⑥技術委員会等の運営

WEB会議システムを活用したリモート会議の定着を図りながら、技術委員会及びCASベンダーとのコンサルティング会議等の適切な会議運営を継続的に進め、ACAS方式に関する技術情報の共有、迅速な課題解決を図った。

【2-2：運用部】

運用部は、ACASチップの流通に関わる運用スキームの構築を担当し、主に受信機メーカーとの契約交渉を行っている。4K・8K対応受信機の製造に必要な契約の締結は30社を超え、契約締結を希望するメーカーからの問い合わせは、現在も続いている。対応受信機の普及に向けて、関係部門と連携しながら運用スキームの改善を行うと共に、新たなスキーム構築にも取り組んだ。

①運用スキームの改善

上述の通り、当協議会と利用契約を締結したメーカーは、30社を超えた。各メーカーの製造スキームやサプライチェーンも様々であり、製造形態ごとの多様な問い合わせへの対応に取り組んだ。ACASチップ搭載受信機の普及拡大と安定運用に向けて、関係部門と連携しながら、運用スキームの改善を行った。

②新たなスキームへの対応

2020年度は、ケーブルテレビのローカル自主放送を行う特殊機器について運用スキームを新たに構築し、ACAS方式普及の環境整備を行った。受信機メーカーのビジネススキームは多様化しており、市場のニーズに応えながら、新たなスキーム開発に取り組んだ。今後もACAS方式のセキュリティを維持しながら、ACAS搭載受信機の普及拡大に向け、関係部門と連携して新たなスキームの構築に取り組んでいく。

③運用委員会等の運営について

運用委員会等の適切な会議運営を図り、ACAS方式の運用にかかわる諸課題に対応した。

【2-3：業務部】

業務部では、Km鍵発行及び関連する諸業務について下記の取り組みを行った。

①Km鍵発行業務

主要業務であるKm鍵発行業務について、販売会社、チップベンダー及びBCAS社の協力のもと、渉外部と連携し合計12回の鍵発行を遂行した。

鍵発行数量及び発行済みID情報を有効に管理・集計し、関係先への情報共有にも努めた。

②ACASチップ在庫管理集計業務

発行されたKm鍵の使用状況とACASチップの販売状況について、販売会社との在庫管理規程に基づき、セキュリティ維持を目的としたデータの蓄積、集計を実施した。

増大する蓄積データに対応するため、検索システムなど管理手法の見直し・改善を継続して行った。

③IP放送対応業務

IP放送について、関係先からのSTB出荷に関する報告運用フローに対応したシステムの開発、改修を実施した。

Km鍵発行費用のIP放送対応について、集計システムの構築、改修を行った。

【2-4：渉外部】

渉外部では、ACASチップの更なる普及促進のため、ACASチップベンダーと販社との調整により円滑な流通ルートの確保、新規参入条件の取り纏め、整理を継続的に行った。

また、地上・衛星2K無料放送事業者の正会員化のため、会員条件を整備、交渉し、契約締結に至った。

更に、現状運用しているスキームを改善するために必要な、情報収集、課題整理、解決等を行った。

また、スキームを広く消費者にご理解いただくために、関連団体や企業、事業者と連携し、具体的な説明環境を整える等の活動を行った。

①ACASチップの更なる普及

各部・委員会と連携し、円滑な流通ルートの確保のため、ACASチップベンダーと販社との調整を行い、また、第三メーカーがACASチップベンダーとして参入できる様、各種参入条件等を継続的に検討した。

②地上・衛星2K無料放送事業者等との交渉

地上・衛星2K無料放送事業者との正会員化に向けた交渉を行い、2020年10月1日付で正会員となった。

③ACASチップの運用スキームの維持・管理・改善

ACASチップの運用に関する課題の整理、解決を行い、受信機メーカーが新規の商品開発を進めるための環境を整備し、新規メーカーの参加を促進した。

また、技術的課題が発生した、又は発生する恐れがある場合に備え、関係者と密に連携し、速やかに問題解決を図る体制を整えた。

④消費者、関係者への丁寧な説明

関係する団体や受信機メーカー、放送事業者等と連携することで、表記の統一や必要な情報の収集し、コールセンターやホームページ等の必要な環境の整備・充実を図ったうえで、必要に応じて機器の操作方法等も説明することで、市場の混乱を回避した。

【2-6：総務・経理部】

総務・経理部は、法人の運営に関わる基本事項の整備・拡充の取り組みを進めた。また、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、執務環境の整備を行った。

①法人ガバナンスの強化

一般社団法人としての透明性を確保した事業運営推進のため、引き続き、各種規則・規程類について、適宜見直しを図った。

その一環として、ACAS方式の安定的な運用のため、事務局各部の業務(分掌事務)を見直し、それに伴う規程等の整備を行った。

また、テレワーク等の実施に向け、規程を見直した。

②会議の運営

社員総会、理事会等の会議の運営にあたっては、会員、委員等とのさらなる連携を図り、効果的、かつ効率的な運営を行った。

③適正な予算管理

適正な予算管理のため、会計監査人及び顧問税理士法人との連携のもと、適切な区分経理処理に努め、関係部署と連携し、適宜運営経費の見直しを実施した。

④セキュリティ管理の強化

各部との連携のもとに、とくに協議会内の重要物品の保全、防犯など、セキュリティの維持・管理強化を図った。

3. 法人の運営

2020年度に開催された主な会議は以下の通り

区 分	回 数	開催日
社員総会	第14回(臨時・書面)	2020年 4月25日
	第15回(定時・書面)	2020年 6月24日
	第16回(臨時・書面)	2021年 2月 8日
理事会	第60回	2020年 4月25日
	第61回(書面)	2020年 5月29日
	第62回	2020年 6月24日
	第63回(書面)	2020年 7月31日
	第64回(書面)	2020年 9月30日
	第65回(書面)	2020年10月30日
	第66回(書面)	2021年 3月 5日
運営委員会	第70回(電子メール)	2020年 5月22日
	第71回(電子メール)	2020年 6月19日
	第72回(電子メール)	2020年 6月24日
	第73回(電子メール)	2020年 7月17日
	第74回(電子メール)	2020年 9月24日
	第75回(電子メール)	2020年10月22日
	第76回(電子メール)	2021年 2月22日

※上記の他、運用委員会、技術委員会を適宜開催した。